

## はじめに

一人一人の障害等に応じた就職指導を推進し、障害のある生徒の自立や社会参加を図るため、広島県においては、平成18年度より「特別支援学校就職指導充実事業」を実施してきました。平成20年度までの3年間は、広島北特別支援学校と沼隈特別支援学校の2校を研究指定校とし、教育課程や指導方法の改善を図るとともに、ジョブサポートティーチャー（就職支援教員）を配置し、学校と関係諸機関や企業等との連携を図りました。

また、平成20年7月に広島県教育委員会が策定した「広島県特別支援教育ビジョン」に基づき、平成21年度から福山北特別支援学校と広島北特別支援学校の高等部普通科に職業コースを設置するとともに、県立特別支援学校に配置するジョブサポートティーチャーを増員しました。

これらの取組により、高等部（本科）卒業者のうち就職した者の割合である就職率は、9.8%（平成18年3月卒業）から25.0%（平成23年3月卒業）に上昇しました。

さて、平成21年3月に告示された特別支援学校学習指導要領等においては、改善の基本方針の一つとして「自立と社会参加に向けた職業教育の充実」について、地域や産業界と連携し、職業教育や進路指導の充実を図ることが示されました。

具体的には、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること、家庭及び地域や福祉、労働等の業務を行う関係機関と連携を十分に図ること、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなど就業体験の機会を積極的に設けるとともに、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得るようにすることなどが示されています。

この作業学習ハンドブックでは、「特別支援学校就職指導充実事業」の成果を踏まえ、特別支援学校における作業学習の効果的な展開について述べるとともに、県内の特別支援学校で実践されている作業学習の改善事例を紹介します。

本ハンドブックの活用により、一人一人の障害等に応じた就職指導が推進され、障害のある生徒の自立や社会参加が一層図られることを期待しています。

平成23年5月

広島県教育委員会